



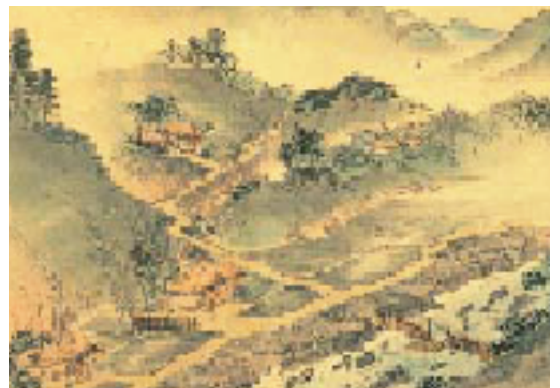
八幡の歴史

B.C.200年代の弥生時代には、海拔20m付近に海岸線がありました。石内地区の湯戸には「百石」があり、飛石を伝って往来していたようです。それより上部の丘陵部には、縄文時代からの考古遺跡が多数存在し、日当たりが良く人々の生活に適していたようです。900年前の平安時代末期に至って、現在の国道2号線西広島バイパス付近に後退し、波出石・木船などの地名が発生しました。しばらくして八幡地区の平地が誕生し、利松・寺田・寺地・中須賀・口和田・高井・保井田の諸村の輪郭ができました。利松～保井田間には影面の道(古代山陽道)が通り、利松には古代の佐伯郡家と大町駅家が所在し、やがて保井田正楽寺や中須賀田中寺などが創建されました。旧中須賀村にあった八幡神社は、地域名のやはたの起源となり神功皇后伝説が残っています。浄安寺・三入寺・慶雲寺などの廃寺も、寺田・寺地の地名の起源となりました。口和田は湯来和田村の口から、高井は高所の井手の意を表わし、中須賀は八幡川と石内川に挟まれた地です。保井田(穂井田ともいう)や利松(中世の名)は中世文書に現れ、中世起源の諸村は近世に受継がれました。明治22年(1889年)の市町村制施行で、旧6村(中須賀・寺地は中地村に併合)は合併し八幡村となり、その後大字として存在しました。昭和30年(1955年)に石内村・河内村・八幡村・観音村・五日市村が合併し五日市町となり、昭和60年(1985年)に広島市に合併され現在の佐伯区となりました。八幡が丘・薬師が丘・折出・美鈴が丘・美鈴園などは、広島市のベッドタウンともなっています。

引用文献

やはたがわまつぶくらぶ『続・八幡川歴史探訪ガイドブック』
平成15年(2003年)3月 広島市佐伯区役所発行

参考文献 「五日市町誌」全3巻五日市町・「都志見往来日記・同諸勝図」広島市中央図書館
やはた歴史探訪くらぶ 天津 五十鈴 今井 千代次 岡田 美孝(イラスト提供)
梶原 美恵 田口 成二 西本 義之 橋本 修 服部 日出夫
山口 繁子 吉野 仁美
指導：品本 五三、佐々木 卓也



岡岷山『都志見往来諸勝図』寺田

企画・編集／やはた歴史探訪くらぶ

協力／やはたがわまつぶくらぶ歴史探訪グループ

発行：平成16年3月 広島市佐伯区役所

(助)広島市ひとまちネットワーク広島市八幡公民館